



平成18年3月31日

日本水大賞委員会



同時発表

国土交通記者会
国土交通建設専門紙記者会
環境問題研究会
厚生労働記者会
環境問題研究会
農政クラブ
農林記者会
文部科学記者会
経済産業クラブ

第8回（2006年）日本水大賞・日本ストックホルム青少年水大賞 各賞の発表される！

日本水大賞（合同受賞）

福井県立福井農林高等学校 環境土木部

「農業水路への設置を目的とした小規模水田魚道の開発による環境保全活動」
足羽川堰堤土地改良区連合

「農業水路に生きものの賑わいを取り戻す地域づくり」

日本ストックホルム青少年水大賞

京都府立桂高等学校

「小さな Case の大きな可能性」～究極の水循環で90億人の食を守る～

お問い合わせ先

日本水大賞委員会事務局
社団法人 日本河川協会
電話番号 03-3238-9771(代)
主任研究員 小野 忠幸

1．日本水大賞について

日本水大賞は、日本水大賞委員会（名誉総裁 秋篠宮殿下、委員長（財）山階鳥類研究所所長 山岸 哲）が主催し、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる21世紀の日本を目指して、水循環系の健全化に向けた諸活動を広く顕彰し、活動を支援するため平成10年6月22日に創設されました。今回で第8回を迎えます。我が国で水環境における全ての団体、個人の研究活動を対象にした唯一の賞であり、大賞以下、水行政に関わる6省全ての大臣賞を設けています。

詳しくは別紙1、2をご参照下さい。

2．日本水大賞の各賞について

日本水大賞は、水循環系の健全化を図る上で、社会的貢献度が高く、総合的な見地からみて、特に優れたものに対して大賞が贈られます。そのほか特に優れたものに対して、国土交通大臣賞、環境大臣賞及、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、文部科学大臣賞および経済産業大臣賞、市民活動賞、奨励賞及びその他審査部会特別賞を授与することとしています。さらに、2002年より日本ストックホルム青少年水大賞（青少年研究活動賞を今回から改称）を設け、受賞者は夏にストックホルムで開かれる国際コンテストに日本代表として参加することができます。その他審査部会特別賞を授与することとしています。

3．日本水大賞の応募状況

第8回（2006年）「日本水大賞」の募集は、平成17年7月7日（川の日）に募集告知を行い、同年11月30日に締切りました。その結果「日本水大賞」には全国より159件、「日本ストックホルム青少年水大賞」には全国の高校より10校13件の応募がありました。

4．各賞の決定について

日本水大賞の各賞の決定は、審査部会において厳正な審査を行い、最終的に平成18年3月30日（木）の日本水大賞委員会において別紙3のとおり決定いたしました。受賞の理由、評価につきましては別紙4にございます。

なお、日本水大賞委員会及び審査部会の委員は、別紙5のとおりです。

5．表彰式及び受賞活動の発表会の開催について

日時：平成18年5月30日（火）

会場：東京都渋谷区 国際連合大学 ウ・タントホール

第 8 回日本水大賞 発表される

日本水大賞委員会（名誉総裁 秋篠宮殿下、委員長（財）山階鳥類研究所所長 山岸 哲）は、平成 18 年 3 月 30 日第 8 回日本水大賞の大賞及び各賞を決定しました。

日本水大賞は、同じフィールドで連携しながら活動していた 2 団体を一つの活動と見なして、福井県「福井県立福井農林高等学校 環境土木部」の研究活動「農業水路への設置を目的とした小規模水田魚道の開発による環境保全活動」と「足羽川堰堤土地改良区連合」の研究活動「農業水路に生きものの賑わいを取り戻す地域づくり」が合同受賞しました。

土地改良区と高校が協力して、生態保全の調査や水田魚道の開発など実践活動を行い、営農意識の向上のみならず、優れた水辺空間を子どもたちの学習の場としても創設している大変有意義な活動です。

日本ストックホルム青少年水大賞は、京都府の「京都府立桂高等学校」の研究活動「小さな Case の大きな可能性」～究極の水循環で 90 億人の食を守る～が受賞しました。

古い文献から見いだした、少ない水で植物を栽培するシンプルな器具で世界の食糧問題の解決にならないかと模索した、大きなスケールに発展する期待をこめた活動です。

受賞者は今年 8 月にスウェーデンで開催される国際コンテスト、ストックホルム青少年水大賞の日本代表として派遣される予定です。

各大臣賞及び市民活動賞は次の通り。

国土交通大臣賞

特定非営利活動法人 あらかわ学会

「様々な立場の人が集う大都市河川・荒川における合意形成手法」

環境大臣賞

愛媛県立伊予農業高等学校 伊予農絶滅危惧海浜植物群保全プロジェクトチーム

「愛媛県伊予郡松前町塩屋海岸における絶滅危惧海浜植物群落の保全活動」

厚生労働大臣賞

「筑後川まるごと博物館」運営委員会

「筑後川まるごと博物館」

農林水産大臣賞

胆沢平野土地改良区

「農業用水の機能維持増進活動」

文部科学大臣賞

宮城県仙台市立北六番丁小学校

「北六 梅田川プロジェクト～IT を活用し、豊かな体験活動を取り入れた環境交流学习～」

経済産業大臣賞

シャープ株式会社 AVC 液晶事業本部（亀山工場）

「シャープ亀山工場における製造工程排水の 100% リサイクル」

市民活動賞

特定非営利活動法人 相模川倶楽部

「相模川流域における不法投棄ごみ対策活動と子どもたちへの環境学習」

その他、奨励賞 3 点、審査部会特別賞 4 点が受賞しました。

なお、表彰式・受賞活動発表会は平成 18 年 5 月 30 日（火）国際連合大学（東京都渋谷区）ウ・タントホールで開催される予定です。



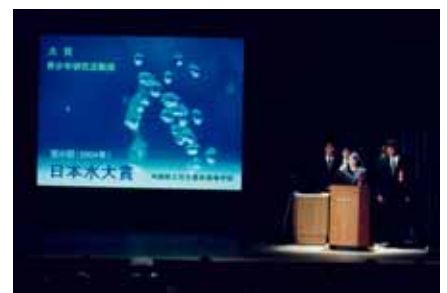
水の惑星 - 地球を形容するのにこれほど適した言葉はないでしょう。水は自然界を循環し、地球上あらゆる生物の生命を育み、生存を支え、汚染を浄化してきました。特に日本においては古来より美しい水を誇り、私たちはその恩恵に浴してきました。私たちはこの美しい水を次世代の子どもたちに受け継ぐことができるのでしょうか……。

平成 10 年 6 月、安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる 21 世紀の日本と地球を目指し、水循環の健全化に寄与することを目的として、日本水大賞委員会（委員長 東京大学名誉教授、国連大学上席顧問 高橋 裕 氏）が（社）日本河川協会を事務局として設立されました。第 8 回より委員長は（財）山階鳥類研究所所長 山岸 哲 氏となり、日本水大賞委員会は各界より 17 名で構成されております。

日本水大賞委員会は、水循環の健全化に寄与する個人、諸団体の地道な研究活動を応募、顕彰して、広く全国に紹介、啓発するための「日本水大賞」を主催し、第 1 回日本水大賞の表彰式、受賞活動発表会が平成 11 年 3 月に秋篠宮同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、盛大に開催されました。また、秋篠宮殿下におかれましては、平成 17 年 5 月に日本水大賞委員会名誉総裁にご就任されました。

第 1 回日本水大賞における大賞以下大臣賞は、建設大臣賞、国務大臣環境庁長官賞（ともに当時）が贈られました。その後第 3 回（平成 13 年 5 月）からは厚生労働大臣賞、第 6 回（平成 16 年 6 月）からは農林水産大臣賞、文部科学大臣賞、そして今回の第 8 回からは経済産業大臣賞が加わり、水環境行政に関わる全ての 6 省から贈られるまでに発展しました。また、第 4 回（平成 14 年 5 月）からはスウェーデンで開催される青少年を対象とした権威ある国際コンテスト、ストックホルム青少年水大賞に参加する日本代表の選考を兼ねた日本ストックホルム青少年水大賞（青少年研究活動賞から改称）が設けられ、2004 年日本代表校の沖縄県立宮古農林高等学校は日本で、アジアで初めてのグランプリを獲得しました。平成 17 年 8 月には、北海道札幌拓北高等学校が日本代表として参加しました。

今年で第 8 回となる日本水大賞は、7 回まで応募総数、のべ 1877 件に達し、大賞以下表彰された個人、団体は、のべ 93 件を数えます。後援をいただくのは国土交通省、環境省、厚生労働省、農林水産省、文部科学省、外務省、経済産業省の他、関係 32 団体。協賛企業は 7 社であり、日本における水環境問題を研究活動する全ての個人、団体を対象とした唯一の賞として、多くの活動される皆様の励み、目標となり、広く国民に水循環の健全化の重要性を啓発する機会として、発展を遂げてきました。



対象範囲

(1) 対象となる活動の内容(活動分野)

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような分野における諸活動(研究、技術開発を含む)を対象とします。

水環境:

- ・川や湖沼、海などの水をきれいにする
- ・水辺の生き物やそのすみかを大切に
- ・水辺や水のある地域づくり

水資源:

- ・水を大切に
- ・山や川などの水源を大切に
- ・異常渇水のときに被害を少なく

水文化:

- ・水や川や湖沼、海などに対する敬意と親愛を高める
- ・水や川や湖沼、海などの文化を創ったり広めたりする(芸術、文学を含みます)
- ・地域における水文化を発掘したり普及

水防災:

- ・水災害に対する安全性の向上に資する技術を開発し、普及する(ハイテク機器、文化財、ライフライン等を水災害から守る)
- ・雨をためる、しみこませる、ゆっくり流す
- ・河川の伝統的技術や災害体験の継承等啓発・普及
- その他、上記 ~ に関する国際的な連携・技術協力・学会活動



(2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下のような方々が実施する諸活動を対象とします。
なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して、以下の賞を授与し、広く公表します。

大賞【グランプリ】(賞状・副賞 200 万円)

水循環の健全化を図る上で、活動内容が幅広くかつ社会的貢献度が高く、総合的見地から特に優れたものに対して授与します。

大臣賞【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】(賞状・副賞 50 万円)

各省の行政目的に関係の深いものの中から、特に優れたものに対して授与します。

市民活動賞【読売新聞社賞】(賞状・副賞 30 万円)

市民活動の中から、特に優れたものに対して授与します。

国際貢献賞(賞状・副賞 30 万円)

活動の範囲や効果が国際的であり、人・文化・技術の日本との交流も含め、大きな功績をあげていると考えられるものに対して授与します。

奨励賞(賞状・副賞 10 万円)

からの上記各賞の他に特に優れたものに対して、2.(2)に示す各活動主体(学校、企業、団体、個人、行政)ごとに授与します。

日本ストックホルム青少年水大賞(賞状・副賞 20 万円及び国際コンテスト参加の渡航、滞在費用(指導教諭 1 名、生徒 最大 3 名))

20 歳以下の高校生、高専、それに順ずる学校の生徒グループ、クラブ等での研究活動から優れたものに対して授与。
日本水大賞の一環として行われますが、応募方法は異なります。

その他、審査部会で表彰に値すると判断されたものは、委員会での承認を経て、審査部会特別賞が授与されます。



(社) 日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5

TEL 03-3238-9771

URL <http://www.japanriver.or.jp/>



ストックホルム ジュニア ウォーター プライズ

SJWP: Stockholm Junior Water Prize

スウェーデン王国の首都、ストックホルムは「北欧のヴェニス」ともよばれ、街は多くの島々から形成されており、美しい水辺空間を古くから市民は誇りとしてきました。

その街において、世界の水資源の研究開発及びより良い水保全の取り組みを目的に、1991年ストックホルム水基金（SWF: Stockholm Water Foundation）が設立されました。それらの研究、活動を奨励するためにストックホルム水大賞（SWP: Stockholm Water Prize 以下 SWP とする）、ストックホルム産業水大賞（SIWA: Stockholm Industry Water Award）が設けられ、その授与、水に関する研究機関の交流を行う組織としてストックホルム国際水協会（SIWI: Stockholm International Water Institute 以下 SIWI とする）が発足し、1994年にはSWPの一環としてストックホルム青少年水大賞（SJWP: Stockholm Junior Water Prize 以下 SJWP とする）が生活の質の向上及び水環境における生態系の改善に資する優れたプロジェクト（調査研究）を行った若い研究者を対象に贈られることになりました。

設立当初はスウェーデン国内だけを対象にしていたが1997年から国際賞となり広く世界から優れた活動を表彰し、若い研究者の大きな励みとなるようになりました。



そもそもスウェーデン王国はノーベル賞発祥の国であり、科学技術の進歩に対する関心、尊敬の念が高く、冬に行われるノーベル賞同様に夏に行われるこれらの賞を「夏のノーベル賞」「水のノーベル賞」と位置付け、その受賞式、晩餐会もノーベル賞と同じ会場、同じ形式で行われており、SWPはカール16世グスタフ国王陛下が、SJWPは皇太子ヴィクトリア王女殿下がそれぞれ自ら授与されるなど、ノーベル賞同様の尊敬と格式をもって行われております。

日本におきましては欧米において活躍されていた権威ある日本人研究者の提言により若い日本人研究者、とりわけ年齢的に対象となる高校生の参加が模索され、「日本水大賞」を主催する日本水大賞顕彰制度委員会（当時）の事務局である（社）日本河川協会が日本代表を推薦する国内予選を行う組織として2001年にSIWIと契約調印を行い、SJWPの日本組織機関として活動を開始し、2002年に国内予選である青少年研究活動賞（当時）を受賞した埼玉県立深谷第一高等学校の生徒を初エントリーとして派遣し、絶大な歓迎をもって迎えられました。2003年には山口県立厚狭高等学校の女生徒を派遣し高い評価を受けながらも大賞（グランプリ）には至りません



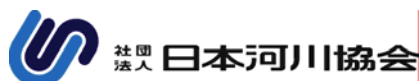
でしたが、2004年に派遣された沖縄県立宮古農林高等学校「For Protecting the Life Sustaining Groundwater of Miyako Island」邦訳「宮古島の命の源である地下水の保全」がそれぞれの国内予選を勝ち抜いてきた参加26ヶ国（棄権1ヶ国）の中において研究内容の素晴らしさはもとより、8年に渡る研究の成果を生徒自身が実践的な地域普及活動に地道に取り組んできたとの英語での発表が多く、審査員の感心を得、みごと大賞（グランプリ）を獲得する栄誉に輝きました。2005年8月には、北海道札幌拓北高等学校がトンボを通じての水環境保全の研究をテーマに日本代表として参加しました。



前記の通り1997年から国際賞となったSJWPの受賞国の歴史は第1回1997年アメリカ、第2回1998年ドイツ、第3回1999年スペイン、第4回2000年アメリカ、第5回2001年スウェーデン、第6回2002年アメリカ、第7回2003年南アフリカ、第8回2004年日本、第9回南アフリカとなっており、欧米諸国の受賞実績がほとんどの中で第8回は

アジアにおいて初めて日本が受賞しました。審査書類、プレゼンテーション全て英語で行われるコンテストにおいて言葉のハンディを乗り越えての今回の受賞は絶賛に値し、ジュニア版「水のノーベル賞」であるSJWPを日本の高校生が受賞した事実は日本の高校教育の高い水準、日本の基礎研究の裾野の広さを世界に知らしめた結果となり、国内においても実業高校の実践的教育機関としての価値を大いに高めたものと思われます。

SJWPが行われるウォーターウィークの約1週間、エントリーされた各国生徒は市内のユースホステルで相部屋の団体生活を、ファシリテーター（スウェーデンの大学生）の指導のもとで過ごします。英語を母国語としない生徒達は最初こそぎこちないものですが、各国の文化を紹介するパーティーなど様々な催しが準備され、やがて若者同士大いに打ち解けあい、多くの友人を作ることができます。また、複数の世界的権威である水環境研究者の講演を聞く機会があたえられます。彼らは帰国後各国で環境問題の研究、活動のリーダーに成長すべく人材であり、ここでの学習、国際交流、文化交流の機会は彼らにとって得がたい貴重な体験になったことでしょう。



〒102-0083
東京都千代田区麹町 2-6-5
麹町 E・C・K ビル 3F
TEL 03-3238-9771 FAX 03-3288-2426
URL <http://www.japanriver.or.jp/>

第8回 日本水大賞各賞一覧 (応募総数159件)

各賞	活動主体	都道府県	活動の名称	活動主体の名称	代表者
大賞	学校	福井	農業水路への設置を目的とした小規模水田魚道の開発による環境保全活動	福井県立福井農林高等学校 環境土木部	境聡
	団体	福井	農業水路に生きものの賑わいを取り戻す地域づくり	足羽川堰堤土地改良区連合	皆川修一
国土交通大臣賞	団体	東京	様々な立場の人が集う大都市河川・荒川における合意形成手法	特定非営利活動法人 あらかわ学会	鈴木誠
環境大臣賞	学校	愛媛	愛媛県伊予郡松前町塩屋海岸における絶滅危惧海浜植物群落の保全活動	愛媛県立伊予農業高等学校 伊予農絶滅危惧海浜植物群保全プロジェクトチーム	三好太智
厚生労働大臣賞	団体	福岡	筑後川まるごと博物館	「筑後川まるごと博物館」運営委員会	駄田井正
農林水産大臣賞	団体	岩手	農業用水の機能維持増進活動	胆沢平野土地改良区	佐々木宏
文部科学大臣賞	学校	宮城	北六 梅田川プロジェクト～ITを活用し、豊かな体験活動を取り入れた環境交流学習～	宮城県仙台市立北六番丁小学校	土生昭文
経済産業大臣賞	企業	三重	シャープ亀山工場における製造工程排水の100%リサイクル	シャープ株式会社 AVC液晶事業本部(亀山工場)	水嶋繁光
市民活動賞	団体	神奈川	相模川流域における不法投棄ごみ対策活動とこどもたちへの環境学習	特定非営利活動法人 相模川倶楽部	小池秀司
国際貢献賞			該当なし		
奨励賞	学校	兵庫	守れ！！先人の財産～いなみ野ため池群世界遺産化計画～	県農ため池調査班	松本宗弘・長光雅実
奨励賞	行政	千葉	市民あま水条例の制定	市川市	千葉光行
奨励賞	団体	静岡	みんなで守ろう安倍の清流～夏の日、子供達と楽しみながら～	安倍川フォーラム	築地勝美
審査部会特別賞	学校	兵庫	高校生を対象とした台風23号に関する防災意識調査及び水害の教訓保存	近畿大学附属豊岡高等学校 豊岡水害風化防止ネット	吉森和城
審査部会特別賞	団体	栃木	渡良瀬川源流の森再生プロジェクト	特定非営利活動法人 足尾に緑を育てる会	神山英昭

2006日本ストックホルム青少年水大賞 各賞一覧 (応募総数10校13件)

日本SJWP	学校	京都	「小さなCaseの大きな可能性」～究極の水循環で90億人の食を守る～	京都府立桂高等学校	
審査部会特別賞	学校	埼玉	トウキョウサンショウウオの三面コンクリート水路での繁殖	埼玉県立松山高等学校 生物部	

審査部会特別賞	学校	愛媛	甦れ！！塩屋の海浜植物群落	愛媛県立伊予農業高等学校
---------	----	----	---------------	--------------

第8回日本水大賞受賞理由

大賞（合同受賞）（副賞200万円）

福井県 農業水路への設置を目的とした小規模水田魚道の開発による環境保全活動
福井県立福井農林高等学校 環境土木部

福井県 農業水路に生きものの賑わいを取り戻す地域づくり
足羽川堰堤土地改良区連合

受賞理由

同じフィールドで、互いに連携した協働活動であると判断し、両団体を大賞と決定しました。単に生態系保全ということだけでなく、営農意識の向上につなげて考えているところが評価できます。水田と河川の生態系ネットワークの分断が言われて久しく、それを改善しようという試みがよく伝わる内容で、活動の中心が子供たちとの連携をとりながら行うものとなっており、現在行っている環境改善が将来につながっていくことが期待できます。ビオトープ造成などの部分的な対策に終始することなく、用水路全域にわたる分布調査をおこないその結果を環境条件と合わせて分析できている点などは、自然回復のために必要な対策を検討する上で役立つ活動ができていると思います。このように具体的、かつターゲットもはっきりしており、両団体の役割も明瞭です。本賞で大賞を受賞するにふさわしいものと判断しました。

国土交通大臣賞（副賞50万円）

東京都 様々な立場の人が集う大都市河川・荒川における合意形成手法
特定非営利活動法人 あらかわ学会

受賞理由

価値観が様々に違う河川と市民との関わりを、研究、調査という手法によって「学会」に集約した方法に興味深いものがあります。「荒川セミナー」も含めた、それぞれの活動が活発であり、「自分たちの荒川」という意識がよく伝わってくる内容です。長年にわたり学術講演会や論文発表および展示会など多くの情報発信もなされています。大河川流域の「合意形成手法」を模索する進取の気象が感じられます。

環境大臣賞（副賞50万円）

愛媛県 愛媛県伊予郡松前町塩屋海岸における絶滅危惧海浜植物群落の保全活動
愛媛県立伊予農業高等学校 伊予農絶滅危惧海浜植物群保全プロジェクトチーム

受賞理由

高校のクラブ活動でありながら産業界、行政及び学識経験者等さまざまな分野と共同して、綿密な調査を行い協力関係の中で非常に大きな事業としています。内容も単なる海岸清掃のボランティア、絶滅危惧種保全のための苗の移植にとどまらず、生態系全体の保全を視野に入れたものとなっております。その手法も科学的に段階的にアプローチしている点は大いに評価しました。

厚生労働大臣賞（副賞50万円）

福岡県 筑後川まるごと博物館
「筑後川まるごと博物館」運営委員会

受賞理由

他県にまたがる流域全体を視野に入れた、周辺の水源保全、自然保全、風土文化や河川環境再生を研究し、「川の博物館」として情報発信しています。久留米大学との連携による公開講座において、ハードなカリキュラムの受講者を同博物館の学芸員として位置づけた活動も斬新です。また、若者達を中心として新たな疑問や課題を発見、発掘する努力もされています。

農林水産大臣賞（副賞50万円）

岩手県 農業用水の機能維持増進活動
胆沢平野土地改良区

受賞理由

用水の生息場所機能や親水機能などの多面的機能を維持増進するために、農家の主体的な維持管理作業を促進する方途を示しています。農業用排水施設において、地域住民、企業を巻き込んだ清掃、管理制度、アドプト協定も着実に根付いてきており、新たなボランティア組織の立ち上げなど今後の広がりが期待される活動です。土地改良区が、多様な活動で広い地域をリードしていることが伺えます。既往応募歴も長く、心意気の高さも評価しました。

文部科学大臣賞（副賞50万円）

宮城県 北六 梅田川プロジェクト～ITを活用し、豊かな体験活動を取り入れた
環境交流学习～
宮城県仙台市立北六番丁小学校

受賞理由

本プロジェクトは、課題発見、問題解決の工夫、実践の各段階を含んでおり教育的な成果が大いに期待される。また過去の単年度での成果に止まらず、それを土台にして年を追うごとに発展させている努力が評価できます。単なるITでなく、川で楽しみながら学習、体験、交流を重ねていくコンテンツがよく、上流小学校、大学、町内会などとの交流やホームページの充実など社会的な連繋や発信に努力されている点も高く評価されました。

経済産業大臣賞（副賞50万円）

三重県 シャープ亀山工場における製造工程排水の100%リサイクル
シャープ株式会社 AVC 液晶事業本部（亀山工場）

受賞理由

企業におけるゴミのゼロエミッション例は比較的多くなっているが、水処理プラントや回収プラントな多くのコストがかかるにもかかわらず、製造工程排水のゼロエミッションを実現しており、生活排水、空調排水についても原水より高い水質にて排水していることを評価しました。この受賞により、他の産業界へ波及していくことも期待しています。

市民活動賞（読売新聞社賞）（副賞30万円）

神奈川県 相模川流域における不法投棄ごみ対策活動とこどもたちへの環境学習
特定非営利活動法人 相模川倶楽部

受賞理由

ゴミ問題に特化した活動であるが、GPSを利用した不法投棄の実態調査や、ゴミマップの作製など、自分たちの活動を目に見える形にして、単なる調査や作業でなく、投棄タイヤのリサイクル事業も含めている工夫をしています。こうした活動については、第2回本賞の奨励賞受賞時から、さらに発展した活動に成長しています。全国的な手本となるような実質的な成果を上げていると評価しました。

奨励賞（副賞10万円）

兵庫県 守れ！！先人の財産～いなみ野ため池群世界遺産化計画～
県農ため池調査班

受賞理由

世界遺産化への現実性はともかく、大きな目標を掲げ、故郷の文化遺産でもある農業ため池をみんなで守っていこうという精神は奨励されます。ため池の草刈りから水質調査、保全を訴える活用計画まで、活発な活動と情報発信を行っていることを評価しました。今後期待できる活動であると思います。

奨励賞（副賞10万円）

千葉県 市民あま水条例の制定
市川市

受賞理由

ユニークな試みであり、全国に先駆けて条例を実現した努力は評価に値します。雨水の浸透施設の設置といった、市民に負担を求める行為に賛否はあろうかと推察しますが、行政があえて条例化に踏み切ったのは公共福祉をみすえた強い決意のあらわれであると思います。

奨励賞（副賞10万円）

静岡県 みんなで守ろう安倍の清流～夏の一日、子供達と楽しみながら～
安倍川フォーラム

受賞理由

川を利用する楽しみをあの手この手で探っている努力が感じられる。現在各地の河川で川の自然を楽しむ文化の復活が求められており、子どもと川をつなげる企画の魅力や団体間の連携の仕方においても、多くの工夫と努力が読み取られ、お手本にできる部分が多いと思われる。

審査部会特別賞（副賞 10 万円）

兵庫県 高校生を対象とした台風 23 号に関する防災意識調査及び水害の教訓保存
近畿大学附属豊岡高等学校 豊岡水害風化防止ネット

受賞理由

高校生が防災無線の風化問題に着目し、問題意識を持ったのは秀逸。調査結果は、メディアを通じて発信した行動力も評価したい。台風 23 号での調査に止まらず、今後もその教訓を土台に様々な防災問題に取り組まれることを期待しています。

審査部会特別賞（副賞 10 万円）

栃木県 渡良瀬川源流の森再生プロジェクト
特定非営利活動法人 足尾に緑を育てる会

受賞理由

森林再生における長期間継続的な実践活動を多くの団体と連携しながら進めてきた実績と熱意を評価しました。植林を主体にした様々な活動が教育現場にも波及しているのは素晴らしいと思います。今後は、植樹や緑化が渡良瀬川の水循環にどのような効果があったのか、水を、川をじっくり見つめる活動に期待しています。

日本ストックホルム青少年水大賞（副賞20万円 国際コンテスト参加）

京都府 「小さなCaseの大きな可能性」～究極の水循環で90億人の食を守る～
京都府立桂高等学校

受賞理由

約170年前、世界各地で植物の研究、採取をしていたプラントハンター達が母国に船で植物を持ち帰った際に使用した器具、ウォーディアンケース。その優れた植物維持機能を少ない水での農業生産に生かせないかと考えた発想が、まず素晴らしいと思います。器具の自作から改良、植物の選定、経過の観察と分析、生徒自身の手でしっかりとなされており、努力と汗が伝わりました。障害者の栽培や、途上国での使用を前提にシンプルで効果的な手法を模索する概念はとても重要です。ストックホルムでの国際コンテストでぜひ日本代表としてその研究成果を発表してほしいと思わせる内容でした。

同 審査部会特別賞（副賞10万円）

埼玉県 トウキョウサンショウウオの三面コンクリート水路での繁殖
埼玉県立松山高等学校 生物部

受賞理由

トウキョウサンショウウオの研究を通じて、コンクリート水路が全ての生物にとって絶対悪だとだれもが思う固定観念を打破した、面白い研究です。問題点を明確にし、十分なデータの上に結論を導き、水に関連する環境の抱える課題に的確に取り組むことによって、新しい知見を得た点を高く評価しました。仮説、調査、分析、結論と整理された報告にも好印象を持ちました。

同 審査部会特別賞（副賞10万円）

愛媛県 甕れ！！塩屋の海浜植物群落
愛媛県立伊予農業高等学校

受賞理由

人工的な改変がもたらした海浜面積の減少と海浜固有の植物群落の生息状況とを調べ、激減する海浜植物の復元に向けた増殖法、さらに実現に向けての環境整備はとても興味深く、水環境保全への積極的な態度が感じられました。また、多くの高校生のレベルを超えた研究作業が生徒自身の手でされていたことは驚かされました。今後が大いに期待される研究です。

第8回日本水大賞委員会 委員名簿

名誉総裁 秋篠宮文仁殿下

氏名	所属・職名
(委員長) 山岸 哲	(財)山階鳥類研究所所長
(副委員長) 虫明 功臣	福島大学理工学群教授
赤星 たみこ	漫画家
石井 弓夫	(株)建設技術研究所会長
大内 照之	WWFジャパン会長
大垣 眞一郎	東京大学大学院教授
椎貝 博美	(社)日本河川協会会長
庄子 幹雄	(社)日本経済団体連合会 廃棄物・リサイクル部会長
白石 興二郎	読売新聞東京本社取締役編集局長
進士 五十八	東京農業大学教授
須藤 隆一	東北工業大学客員教授
千賀 裕太郎	東京農工大学農学部教授
藤吉 洋一郎	大妻女子大学教授
(特別委員) 佐藤 信秋	国土交通事務次官
(特別委員) 炭谷 茂	環境事務次官
(特別委員) 戸茆 利和	厚生労働事務次官
(特別委員) 石原 葵	農林水産事務次官
(特別委員) 杉山 秀二	経済産業事務次官

第8回日本水大賞委員会 審査部会委員名簿

名誉総裁 秋篠宮文仁殿下

氏名	所属・職名
(部会長) 虫明 功臣	福島大学教授
浅羽 雅晴	東京工業大学 特任教授
池田 裕一	宇都宮大学 工学部 助教授
池坊 由紀	華道家元池坊 次期家元
大垣 眞一郎	東京大学大学院 教授
大野 重男	(財)ハーモニセンター理事長
北村 行孝	読売新聞東京本社科学部長
佐々木 修	(独)環境再生保全機構地球環境基金部長
重 政子	NPO法人自然体験活動推進協議会事務局長
竹門 康弘	京都大学防災研究所 助教授
藤原 正弘	(財)水道技術研究センター理事長
松田 芳夫	中部電力(株)顧問
水谷 正一	宇都宮大学 農学部 教授
森 誠一	岐阜経済大学 教授
山田 正	中央大学 工学部 教授
山本 雅史	(財)河川環境管理財団常務理事
若林 明子	淑徳大学国際コミュニケーション学部 教授

第8回日本水大賞委員会 日本ストックホルム青少年水大賞審査部会委員名簿

名誉総裁 秋篠宮文仁殿下

氏名	所属・職名
(部会長) 千賀 裕太郎	東京農工大学農学部教授
小畑 史子	京都大学大学院地球環境学堂助教授
清水 芳久	京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター助教授
清水 義彦	群馬大学工学部建設工学科 都市工学講座助教授
谷田 一三	大阪府立大学大学院理学系研究科教授